第3章 目指す将来像と公共交通の目標

3-1 公共交通の方向性

関連計画との関係性

摂津市の地域公共交通が目指す将来像や目標の設定にあたり、「摂津市行政経営戦略」や「摂津市都市計画マスタープラン」などの関連計画で示されている基本方針や取組の方向性と整合を図っていきます。

なお、関連計画で掲げられている基本方針や取組の方向性の詳細については、参考資料（参考-41～参考-47）を参照してください。

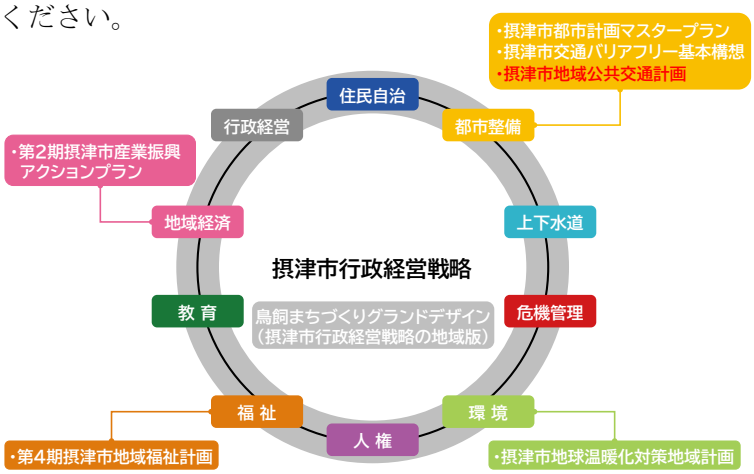

図 12 関連計画との関係性

将来像や目標を考えるうえでの観点

公共交通を取り巻く現状と関連計画で整理されている基本方針や取組の方向性などを踏まえ、摂津市が目指す将来像および 30～50 年先の目標を考えるうえでの観点を次のとおり整理しました。

摂津市が目指す将来像および30～50年先の目標を考えるうえでの観点
①ネットワークとしての公共交通の充実 ⇒暮らしやすいまちの実現に向けて、狭あいな生活道路がある地域における住民の外出手段の確保や、既存交通への乗り継ぎなどを考えていくことが必要
②交通の円滑化 ⇒産業の更なる活性化や外出促進をしていくため、地域の事業者も巻き込みながら渋滞解消につながる方法を考えていくことが必要
③自転車の活用 ⇒移動しやすい環境形成にあたり、自転車による公共交通の補完や、自転車と公共交通の共存などを考えていくことが必要
④道路空間のプライオリティ見直し ⇒車に頼らなくても移動できるまちの実現に向け、道路や駅前広場などにおいて公共交通にプライオリティを置いた空間のあり方や施策を考えていくことが必要
⑤公共交通のサービス・情報統合 ⇒利用しやすい公共交通にしていくため、市民や市外来訪者が求める情報提供のあり方や方法を考えていくことが必要
⑥住民意識の向上 ⇒持続的な公共交通の実現に向けて、公共交通利用者である住民との共創も考えていくことが必要

図 13 将来像や目標を考えるうえでの観点

3-2 目指す将来像と目標

将来像

誰もが気軽に出かけられ、はたらき、暮らせるふらっとなまち

～ 平坦な地形を活かした多様な交通手段の展開により、ふらっと出かけられる機会を創出 ～

図 14 目指す将来像（イメージ）

30～50年先の目標

6 つの観点	30～50 年先の目標	SDGs との関係
①ネットワークとしての公共交通の充実	目標①　新技術などを含めた多様なモビリティにより、市内のどこからでも目的地にアクセスできるまち	
②交通の円滑化	目標②　公共交通への転換など、かしこいクルマの使い方の浸透により、渋滞がほとんどない生活がしやすいまち	
③自転車の活用	目標③　平坦な地形を活かして自転車と公共交通が連携し、移動需要を双方で補完しあうことで、誰もが自由に移動できるまち	
④道路空間のプライオリティ見直し	目標④　道路や駅前広場などの空間において、使い方の優先度が適切に設定され、安全性や利便性が最大限に高められた、賑わいあふれるまち	
⑤公共交通のサービス・情報統合	目標⑤　公共交通事業者相互にとどまらず、市内の企業や施設、市民が共創し、情報の一元化や取組のシームレス化が実現されたまち	
⑥住民意識の向上	目標⑥　住民や企業、就業者など摂津市の移動に関わる全ての人が、交通手段をかしこく選択する意識を持って、公共交通を守り、育てられているまち	

図 15　30～50 年先の目標

当面の目指す姿（5 年先の目標）

当面の目指す姿（5年先の目標）
目標①　ラストマイル※1の多様な移動手段が整えられ、既存公共交通を利用しやすい状態
目標②　ピーク時の通勤需要など、特定のターゲットを絞った対策により、深刻な渋滞が緩和した状態
目標③　公共交通の需要を減らさず、サービスを補完する形で、自転車・シェアサイクルを利用しやすい環境が整った状態
目標④　既存公共交通やラストマイルの手段などが利用しやすい空間として整えられ、渋滞がなく安全で快適に通行ができる状態
目標⑤　事業者間のダイヤ・路線情報などを共通化した媒体があり、利用者が容易にアクセスできる状態
目標⑥　住民など※2が、公共交通の現状を認識し、自家用車の利用を控える意識を持つとともに、公共交通の利用促進に携わる人材が確保・育成された状態

※1　ラストマイル　：モノ・サービスが到達する最後の区間のこと。公共交通分野においては最寄り駅・バス停から自宅・目的地までの区間を指す。本計画ではファーストマイルを含む用語として整理。
※2　住民など　：住民や企業、就業者など摂津市の移動に関わる全ての人。

図 16　当面の目指す姿（5 年先の目標）